

はじめに

新たな2019年がスタートしました。労使で策定したJR西日本グループ中期経営計画2022、並びに鉄道安全考動計画2022がスタートし、間もなく1年が経過します。

昨年は、大阪北部地震、西日本豪雨、台風などの自然災害が西日本エリアで相次ぎましたが、災害復旧やバス代行のお客様対応など、組合員皆様さんのご奮闘に對しまして改めて敬意を表しますとともに、救援カンパ、並びに災害ボランティアに對しまして、多大なるご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

本委員会では、おもに以下の当面する重要方針について提起します。

福知山線列車事故から間もなく14年が経過し、事故現場については「祈りの杜 福知山線列車事故現場」として整備が完了しました。また、本年1月24日で伯備線触車事故から13年となりました。そして、新幹線の重大インシデントから1年が経過し、さまざまな取り組みを進めてきました。そのような中、安全考動計画2022の初年度の8月と9月には、続けて2件の死亡労災事故が発生させてしまったことは真摯に反省しなければなりません。今後も我々が策定した「安全提言」を基礎に、引き続きグループ・協力会社を含めた職場からの安全確立に向けた取り組みをより進めていきます。

2019春季生活闘争に向けては、2019年3月期の中間決算では大阪北部地震、西日本豪雨の影響もあり減収減益となりましたが、通期については当初計画通りとなっており、2018年度下期は好調な経営状況にあると見ています。

具体的な取り組み方針

1 安全確立に向けた取り組み

JR西労組は、2005年4月25日に発生した福知山線列車事故の反省と教訓を胸に刻み、二度と悲劇を繰り返さない決意で、安全確立を最優先課題に位置付けて取り組んでまいりました。労使の議論を通じ、組合側からの提言も反映しながら「安全性向上計画」、「安全基本計画」、

るJR西日本に對して、組合員の労苦に報いるべく昨年以上の公正配分を求め、グループ労組への相乗効果も発揮できるよう組織の総力を挙げて臨みます。引き続き、集会和学習会の開催、情宣活動の強化など、見える化に努め、理解と参画を求めることとします。

このほか、現在労使で議論している、契約社員の小廃止に向けた、駅のあり方の議論については、我々がこれまで求めてきたものであり、ようやく形になるうとしています。また、同一労働同一賃金の議論を通じて大きな成果も勝ち取ることができました。さらに、労働時間管理をはじめとする働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進など、引き続き組合員の負託に応えるべく労使協議を進めていきます。

これらの賃金をはじめとする労働条件の改善に向けては、中期的な視点に立ちグループ全体の持続的発展、安定経営に向けグループ会社・協力会社との信頼関係をより強化し、一体となり取り組みを進めていくこととします。

組織の充実・強化については、JR東労組の組合員不在の独善的運動が招いた大量脱退を反面教師として、組合員の声に耳を傾け、労働組合の原点である助け合いの精神を発揮して組合員から信頼され、職場の課題を的確に把握して会社に問題提起することのできる組織を作り上げるべく、改めて仲間へ寄り添い、組合員とのコミュニケーションを重視した分会活動の充実と職場でのハラメント撲滅に取り組み、魅力と求心力のあるJR西労組運動を全員参加で作り上げていきます。

このほか、JRに關係する政策課題は依然山積しており、政治との連携が不可欠です。会社と当社エリアの持続的な発展にむけ、組合員と家族に政治の重要性について理解を深めていくこととします。

そして、今春の統一地方選挙には、三日月知事以来のJR入社の現職組合員2名が立候補するほか、この1年間でJR西労組地方議員団8名が改選を向えます。また、夏の参議院選挙を含めて、我々が推薦する候補の全員当選に向けて取り組みを強化していきます。

組合員各位には、こうした問題意識に基づき、建設的で真摯な討議を行い、次世代に向けて魅力と責任あるJR西労組運動を研ぎ、実践いただくよう要請します。

「安全考動計画2017」そして現在の「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」(以下、鉄道安全考動計画2022)の策定につなげ、また、福知山線列車事故から10年を契機として策定した「JR西労組安全提言」実践と目標の達成に向け積極的に取り組んでいるところで

そのような中、2017年12月11日に「のぞみ34号」の台車に亀裂等が見つかる重大インシデントが発生しました。新幹線の安全の根幹に関わる極めて危険な事象であり、ご利用者、国民の新幹線に対する信頼を失墜させかねないものであることを深刻に受け止めなければなりません。また、2018年度に入ってから8月10日に下関総合車両所における墜落死亡労災、9月13日には東海道本線 栗東―草津間における感電死亡労災と相次いで発生してしまいました。この他にも三大労災である感電・墜落事故や触車に繋がる恐れのある待避不良が連続して発生しており、あらためて自らの命、仲間の命を守るために、いかなる理由があっても、ルールや基本動作を徹底することをグループ労組とも連携して進めていかなければなりません。

また、事故から13年が経過し、事故後に入社した組合員も1万人を超え、急速に世代交代が進む中で、あの事故が取り返しのつかない悲劇を生んでしまったという事実を決して忘れることなく、そして心に刻み、安全確立の運動を最優先課題に位置付け、安全対策のさらなる実効性の向上に取り組まなければなりません。

右に述べた問題認識のもと、引き続きJR連合が掲げる「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の完遂をはじめ、組合員の参加によってチェック・提言機能をさらに強化し、職場からの安全確立に取り組むこととします。そして、有識者会議からJR西日本はPDCAのCAが不十分であるとの指摘を受けていますが、この(Cチェック)とA(改善、提言機能)については、まさに労働組合が果たすべき機能、役割であり、これらについて、さらに磨きをかけ、職場からの視点で安全確立に努めていくこととします。

1. 鉄道安全考動計画2022の検証と実践に向けた取り組み
2. 新幹線重大インシデントへの対応と更なる安全強化に向けて
3. すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロの完遂に向けて
4. グループ会社・協力会社と連携した取り組み
5. 事故を決して忘れない取り組み



第37回中央委員会 職場討議資料

第37回中央委員会スローガン(案)

メインスローガン

創造・参加・実践

責任組合の役割を自覚し、安全を基礎に
持続的発展に向けた展望を切り拓こう!

サブスローガン

1. 労使で築いた安全考動計画2022の完遂に向け、チェック・提言機能を研ぎ、全員参加で安全対策を強化しよう!
2. 全員参加の運動を通じて2019春季生活闘争に勝利し、JR西日本グループに働く者の賃上げ・生活改善を実現しよう!
3. 分会活動とコミュニケーションを活性化し、ハラスメント防止と組合員に信頼される組織の強化・運動の継承を進めよう!
4. 労働力不足をはじめとする課題に向き合い、組合発の企画提案運動を強化し展望を拓こう!
5. 男女平等参画、ワーク・ライフ・バランス、働き方改革を推進し、充実した職場と豊かな人生を築こう!
6. 地域との対話と参加を大切にし、鉄道の特性を活かした地域活性化を図ろう!
7. 来る統一地方選挙・参議院議員選挙に向け、政治への理解を深め、働く者の立場から政策を実現し将来を築こう!

